

問題一

問一 A 〓秘匿 B 〓誇張 C 〓順応

D 〓検閲 E 〓罵倒

問二 読者である他者や未来の自分に見せたい自己を演じるということ。(三〇字)

問三 読者の社会的規範に沿う内容を反復して書くことで規範が自己の内に取り込まれるから。(四〇字)

問四 日記が読者への意識によって内面化した規範とそこから逸脱した内面の告白の葛藤の中で書かれるということ。

(五〇字)

問題二

問い一 人民を抑圧する為政者がいたために、天賦の人権を行使することができなかつたのである

問い二 認識されるかどうかではなく、実際に存在するのかもしれないのかということ。（三四字）

問い三 人権は天賦のものでないという論は歴史的にも誤りであり、物理学の法則と比較すればその矛盾は明白だから。

（五〇字）

問題三

従来のメディアリテラシー教育は情報を吟味できる市民の増加を目指したが、現代では楽観的に見える。SNSの普及は個人の情報発信を可能にし、各人が情報の発信、受信の責任を持つべき時代となった。そこでは情報の真偽を見分けることよりも、あいまいな情報に耐え、不用意な発言を控えるネガティブ・リテラシーが求められている。われわれは早期の問題解決能力よりも、あいまいな情報に耐える人間力こそを身につけるべきである。

(二〇〇字)